

事務事業評価表（一般事業）

評価対象年度	平成 25 年度
1次評価日（主幹等）	26年 3月 31日
2次評価日（課長等）	26年 3月 31日

1 事業名	計量検査事業	コード	165129
-------	--------	-----	--------

2 担当部課	部等 経済部	課等 工業振興課	作成者 真田 健
--------	--------	----------	----------

3 事業概要	目的体系	基本目標	総合計画の推進に向けて		
		政 策	総合計画の推進に向けて	施 策	その他
		予算科目	計量検査事業費	業務委託	なし（直営）
		実施義務	あり（義務的・標準的事業）	国県補助	なし
		根拠法令	計量法		

●事業の内容（D0）

4 事業の概要等		*対象者（誰のため）、意図（どのような状態にしたいのか）
事業の概要 （簡潔に）	計量検査の適正な実施により正確な計量器の能力を維持する。	
目的	対象者	各種計量器を扱う企業、業者、個人
	意 図	適正な計量器メーターの設置

5 事業の実施内容		*25年度に、いつ・どこで・誰が・何を・どのように行ったか、という具体的な内容
<p>特定計量器（質量計）の定期検査を実施した他、新聞広告やポスター等を通じて、計量に関する周知啓発を推進した。</p>		
前年度の課題への対応	特になし	

6 指標の達成状況		*活動指標：この事業の規模、成果指標：この事業によって得られる住民の満足度			
区 分	23年度	24年度	25年度	26年度（予算）	
① 活動指標（指標名）	検査数			単位	件
	実績値	81	43	79	
	*指標の説明	計量器定期検査実施件数			
② 成果指標（指標名）	合格件数			単位	件
	目標値	491	77	384	77
	実績値	77	384	77	
	達成度	15.7%	498.7%	20.1%	
	*指標の説明	定期検査により合格件数			
*目標値の設定方法の説明	前年度検査件数				

7 ア) コストの推移

* この事業にかかる費用（人件費は、1人あたり年間800万円で換算）

[単位：円]

区分	23年度	24年度	25年度	26年度(予算)
① 直接事業費	123,860	113,240	221,882	267,000
経常経費	123,860	113,240	176,542	267,000
臨時的経費	0	0	45,340	0
* 臨時的経費の説明	全国計量行政会議技術委員会旅費			
区分	23年度	24年度	25年度	26年度(見込み)
② 人件費	3,200,000	3,200,000	3,200,000	3,200,000
正規職員の人数(人)	0.40	0.40	0.40	0.40
③ 合計コスト(①+②)	3,323,860	3,313,240	3,421,882	3,467,000
前年度比		99.7%	103.3%	101.3%
財源内訳				
一般財源	3,323,860	3,313,240	3,421,882	3,467,000
特定財源	0	0	0	0
* 特定財源の説明				
④ 活動一単位あたりコスト	41,035	77,052	42,741	
前年度比		187.8%	55.5%	
⑤ コストに関する補足説明				

イ) 補助金負担金の状況

[単位：件、円、%]

補助金負担金名		23年度	24年度	25年度	26年度(予算)
	件数				
	金額				
	件数				
	金額				
	件数				
	金額				
	件数				
	金額				
ア)の①に含まれる負担金等合計金額及び割合	合計金額	0	0	0	0
	割合	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%

* 行が足りない場合は追加してください

●事業の評価(CHECK)

8 妥当性評価

* 妥当性=行政がこの事業を行う必要性はあるか。

妥当性

高い

評価項目	はい	いいえ
① 現時点で、税金を投入して積極的に関与すべき重要な分野である。	1	
② 民間(企業、NPO、市民団体等)へ委ねることが難しく、市が行う必要がある。	1	
③ 民間(企業、NPO、市民団体等)が行うサービスと類似・競合していない。	1	
④ 国・県の事業、市が行っている他の事業と類似・重複していない。	1	
⑤ この事業の効果は広く市民に還元され、特定者の利益にはなっていない。	1	

9 有効性評価

* 有効性=成果指標(項目7/住民の満足度)は向上しているか。

有効性

標準

評価項目	はい	いいえ
① この事業が属する施策において、この事業の優先度が高い。	1	
② 社会情勢の変化や市民ニーズを把握し、今年度の事業内容に反映した。	1	
③ この事業の目的を達成する上で、現在の方法が最も効果的で低コストである。	1	
④ この事業の利用者が増加した。	成果指標の実績値 前年度比 20.1%	0
⑤ 年度当初に期待した成果が得られた。	成果指標の目標値 達成度 20.1%	0

●改善の内容 (ACTION)

10 具体的な課題と改善

課題	(少ない費用で効率的に事業を行い、市民サービスを向上させる上で、現在課題になっていること) 特定計量器の定期検査にかえ、商品量目等の立ち入り検査についても、効率的実施について検討する。	
	(上記の課題をふまえて26年度以降に実施する、具体的な改善の内容) 年間での検査スケジュールを立て、年間スケジュールを遂行できるよう、効率的な検査の実施に努める。	
改善方法	改善開始時期	平成26年4月

●次年度の計画 (PLAN)

11 次年度の方針	継続して実施	12 施策評価による26年度の優先度 *H24年度施策評価表より転記すること	B
-----------	--------	---	---